

僕らの春



98センバツ関大一

◇下

「怪物みたいなチーム」と評するほどだった。無欲で挑んだ試合は、3-2でサヨナラ勝ち。尾崎監督は「やればできるんだ。自信をもつてやろう」と選手たちに語りかけた。

決勝戦で履正社に敗れ、甲子園への夢は一步及ばなかったものの、目標にしていた上宮に勝つての準優勝は、秋につながる大きな財産を残した。

横山央宣主将をはじめ夏のメンバー6人が残り、新

関大一にとって、ようやく勝に進出。他のベスト4になつてきたのは、5年ほど前から。しかし、3、4戦勝ち進んだところで強豪の

厚い壁破りつかんだ自信

「守りの野球」完成目指す

壁に跳ね返される大会が続いた。特に、プロ野球にも多くの選手を送り出しているPL学園と上宮の壁は厚かった。

一昨年の秋の府大会、センバツ出場に燃える関大一ナインは順当に勝ち進み準決

宮に0-5で敗れた。当時1年生ながら先発出場した西本雅成捕手は「上宮のすごさを認めてしまったのが悔しい」と振り返る。点差以上の完敗に、選手たちは「過信があったのは事実」「実力の差がありすぎた」

た。ひと冬越えて、たかましくなった選手たちは、昨夏の大坂大会へ、勝ち進んだ関大一は4回戦でまたも上宮と激突した。昨シーズンの上宮はスター選手がそろい、センバツでベスト4。尾崎監督が

チームを結成。夏の経験から、「一球の重みを知る」をテーマに、伝統の堅い守りに磨きをかけた。チャン

「怪物みたいなチーム」と評するほどだった。無欲で挑んだ試合は、3-2でサヨナラ勝ち。尾崎監督は「やればできるんだ。自信をもつてやろう」と選手たちに語りかけた。

持って挑んだ」秋の府大会で好成績を残し、近畿大会でも智弁学園に11-0と大勝してベスト8に。公式戦10試合で失策8。全員で守り抜いた堅守が光る。69年ぶりにつかんだ甲子園出場。「冬場に試合を想定した練習ができるのがうれしい」と喜びをかみしめる。【大橋 公一】



秋の近畿大会で智弁学園（奈良）に勝ち、応援団に駆け寄る関大一ナイン